

柏の景気情報（平成18年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成18年10月分）

○ 調査期間 : 平成18年10月19日 ~ 10月24日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	70	70.7%
建設	17	15	88.2%
製造	23	15	65.2%
卸・小売	40	27	67.5%
サービス	19	13	68.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【18年10月の調査結果のポイント】

◀ 全産業の業況DI値は全産業で改善 ▶

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.1(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が△7.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△13.3(同△5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲28.5)、卸小売業▲7.4(同▲14.8)、建設業▲20.0(同▲26.6)である。

【建設業】では、「価格競争は厳しい」、「価格競争の結果が市場単価に響いている」(建築工事)との価格競争の声や、「厳しい状況は変わらない」(建築工事、電気工事)、「先行き不透明感は否めない」、「相変わらず」(土木工事)との厳しい声が寄せられた。一方で、「世の中全体が活発化されてきた」(建築工事)、「工期が集中し調整が厳しい」(板物・金物工事)、「少し明るさが見えてきた」(塗装工事)との明るい声も寄せられた。

【製造業】では、「原油価格は落ち着いたが原材料価格の下落までには至っていない」(工業用ゴム製品製造)、「複写機業界は、良い方向へ向かっており、売上の伸びは若干でも上向きにきている」(その他の鉄鋼)、「半導体設備が非常に良い」(デバイス製造)との明るい声や、「秋雨の影響で平均気温が平年・前年ともに大きく下回り、業界全体の出荷量も前年を下回った」(清涼飲料製造)との声も寄せられた。

【卸・小売業】では、「気候も安定し良くなると思ったが、量販店・専門店・飲食店は今一步」、「台風被害は少ないが、猛暑のあと大雨による影響があった」(食料卸売)、「好天が続き気温も高めで、売上が前年並みに推移」(各種商品小売)、「好天が続き比較的好調」(菓子・パン小売)、「朝夕の冷え込みでセーター類は動いたが、連日の温かさでストップ。衣替えも冴えない」(衣料品小売)、「気温が低下し、年末に向け期待」(各種商品小売)、「台風・低気圧の影響で売上高が落ち込んだ」(各種商品小売)との天候の影響の声が多く寄せられた。「ららぽーと柏の葉オープンに期待」(食料卸売)、「ららぽーとの本格的募集やジャスコの募集の影響で人材が集まらない」(飲食料品小売)、「ららぽーと柏の開店状況が気になる」(書籍・文房具小売)、「大型店(ホームセンター・スーパー・コンビニ等)に支配され厳しい状況。大型店乱立で今後の方向付けに苦心」(花・植木小売)との大型店出店に関する声が寄せられた。「年末に向けてギフト・クリスマス等の予約商品に取り組み、売上を作っていく」(各種商品小売)、「冬物のコート類に期待」(衣料品小売)、「年々販売期間が短くなる秋物商品に変わり、冬物商品が並びはじめた」(各種商品小売)、「お歳暮の早期受注をスタートさせた」(百貨店)との冬物商品に関する声が寄せられた。「原油価格の値下げ傾向にあり。市況価格も下がり気味」(ガソリンスタンド)、「原油高騰が一般10円価格少々下落」(燃料小売)との原油価格に関する声が寄せられた。「飲食店は酒気帯び運転が騒がれ苦戦」(食料卸売)、「セール強化(創業祭、セ・リーグ、パ・リーグ優勝セールetc)により、昨年比を維持しているが荒利が取れない。セール効果は住関連、食品で出ており荒利の高い衣料が今一步不振」(各種商品小売)、「厳しい業況に変わらない」(各種商品小売)、「文化祭・体育祭関係も予算縮小で例年に比べ冴えない」(飲食料品小売)、「前年比売上減少止まらず」(書籍・文房具小売)との厳しい声が寄せられる一方、「売上げは前年と同水準を維持」(百貨店)、「イベントが奏功し入店客数・売上共に前年を上回る推移」(各種商品小売)との明るい声が寄せられた。「野菜部門は、前年を上回る入荷で増加傾向、単価高もおさまり安値の動き。果実部門は、入荷減の単価高。特に、みかんが約15%の減少予想」(食料・飲料卸売)、「経済産業省で安定供給重要性のため、LPガス備蓄制度の検討を望む」(燃料小売)との声も寄せられた。

【サービス業】では、「平日のランチタイムは忙しいが、ディナータイムの客足が減った」(食堂・レストラン)との飲酒運転禁止の影響に関わる声があった。「お客様の利用が増えた。秋の味覚フェアが、利用客増につながった」(食堂・レストラン)、「展示会は好調、宿泊は長期滞在者多し」(ホテル)との明るい声が寄せられた。

◎天候の影響

「秋雨の影響で平均気温が平年・前年ともに大きく下回り、業界全体の出荷量も前年を下回った」、「気候も安定し良くなると思ったが、量販店・専門店・飲食店は今一步」、「台風被害は少ないが、猛暑のあと大雨による影響があった」、「好天が続き気温も高めで、売上が前年並みに推移」、「好天が続き比較的好調」、「朝夕の冷え込みでセーター類は動いたが、連日の温かさでストップ。衣替えも冴えない」、「気温が低下し、年末に向け期待」、「台風・低気圧の影響で売上高が落ち込んだ」との声が寄せられた。

◎厳しい業況

「価格競争の結果が市場単価に響いている」、「大型店(ホームセンター、スーパー、コンビニ等)に支配され厳しい状況。大型店乱立で今後の方向付けに苦心」、「厳しい状況は変わらない」、「厳しい業況に変わらない」との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲ 15.2	▲ 21.4	△ 5.8	▲ 26.6	▲ 9.0
6月	▲ 17.1	▲ 42.8	△ 33.3	▲ 33.3	▲ 21.4
7月	▲ 16.4	▲ 42.8	△ 22.2	▲ 21.4	▲ 30.7
8月	▲ 10.6	▲ 33.3	△ 16.6	▲ 10.7	▲ 21.4
9月	▲ 14.8	▲ 26.6	△ 5.5	▲ 14.8	▲ 28.5
10月	▲ 7.1	▲ 20.0	△ 13.3	▲ 7.4	▲ 15.3
見通し	±0.0	▲ 6.6	±0.0	△ 7.4	▲ 7.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	±0.0	△ 8.5	▲ 5.7	▲ 5.7	▲ 40.0	▲ 25.7	△ 14.2	△ 18.5
建設	▲ 26.6	△ 6.6	▲ 40.0	▲ 26.6	▲ 60.0	▲ 40.0	△ 6.6	△ 6.6
製造	△ 46.6	△ 20.0	△ 40.0	±0.0	▲ 53.3	▲ 40.0	△ 13.3	△ 26.6
卸・小売	▲ 11.1	△ 3.7	▲ 11.1	▲ 3.7	▲ 33.3	▲ 14.8	△ 7.4	△ 7.4
サービス	±0.0	△ 7.6	▲ 7.6	△ 7.6	▲ 15.3	▲ 15.3	△ 38.4	△ 46.1

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 7.1	±0.0	▲ 1.4	±0.0
建設	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6	±0.0
製造	△ 13.3	±0.0	△ 13.3	▲ 6.6
卸・小売	▲ 7.4	△ 7.4	±0.0	△ 11.1
サービス	▲ 15.3	▲ 7.6	▲ 15.3	▲ 15.3

【平成18年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.1(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が△7.7ポイント縮小した。

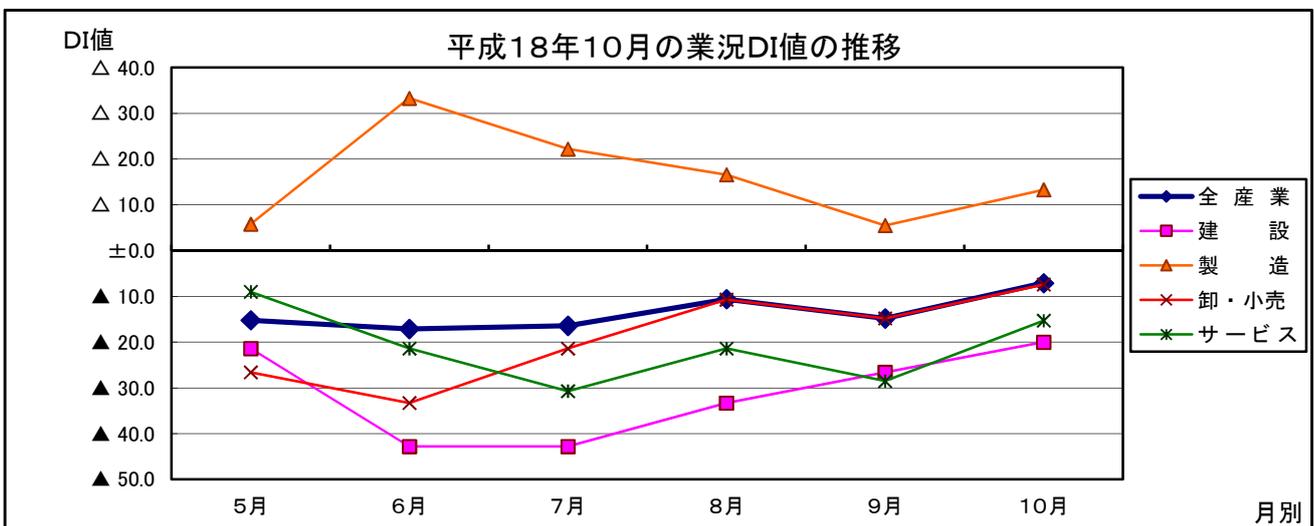
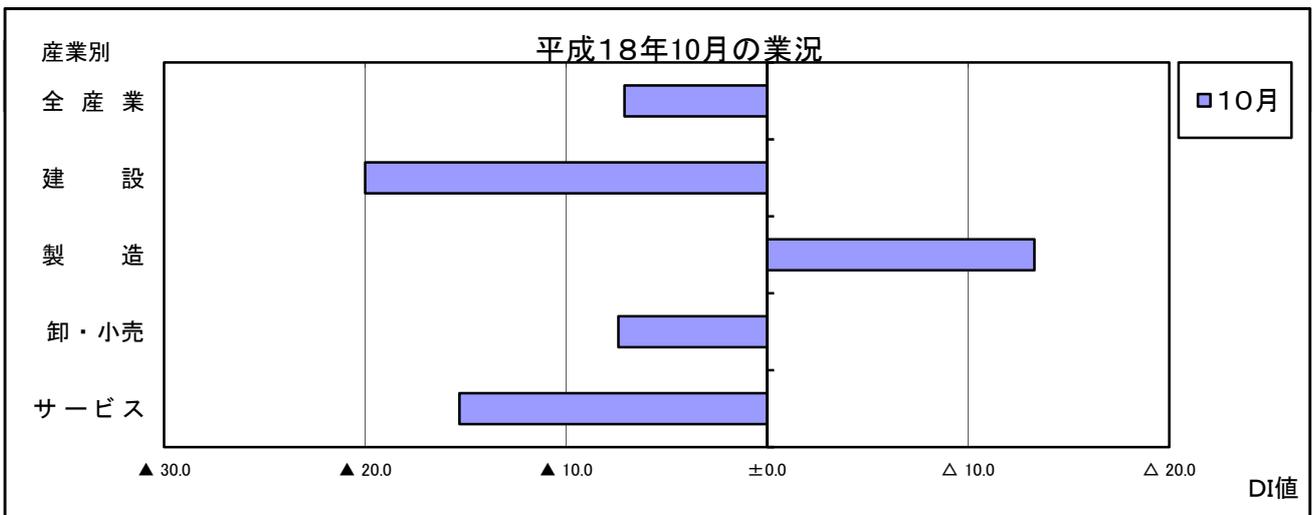
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△13.3(同△5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲28.5)、卸小売業▲7.4(同▲14.8)、建設業▲20.0(同▲26.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が△17.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変わらない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△7.4(同▲17.8)であり、△25.2ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.6(同▲28.5)、建設業▲6.6(同▲26.6)である。特に、サービス業はマイナス幅が△20.9ポイント、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成18年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲15.2	▲17.1	▲16.4	▲10.6	▲14.8	▲7.1	±0.0(▲17.3)
建設	▲21.4	▲42.8	▲42.8	▲33.3	▲26.6	▲20.0	▲6.6(▲26.6)
製造	△5.8	△33.3	△22.2	△16.6	△5.5	△13.3	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲26.6	▲33.3	▲21.4	▲10.7	▲14.8	▲7.4	△7.4(▲17.8)
サービス	▲9.0	▲21.4	▲30.7	▲21.4	▲28.5	▲15.3	▲7.6(▲28.5)



【平成18年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、±0.0(前月水準▲5.4)となり、マイナス幅が△5.4ポイント縮小した。

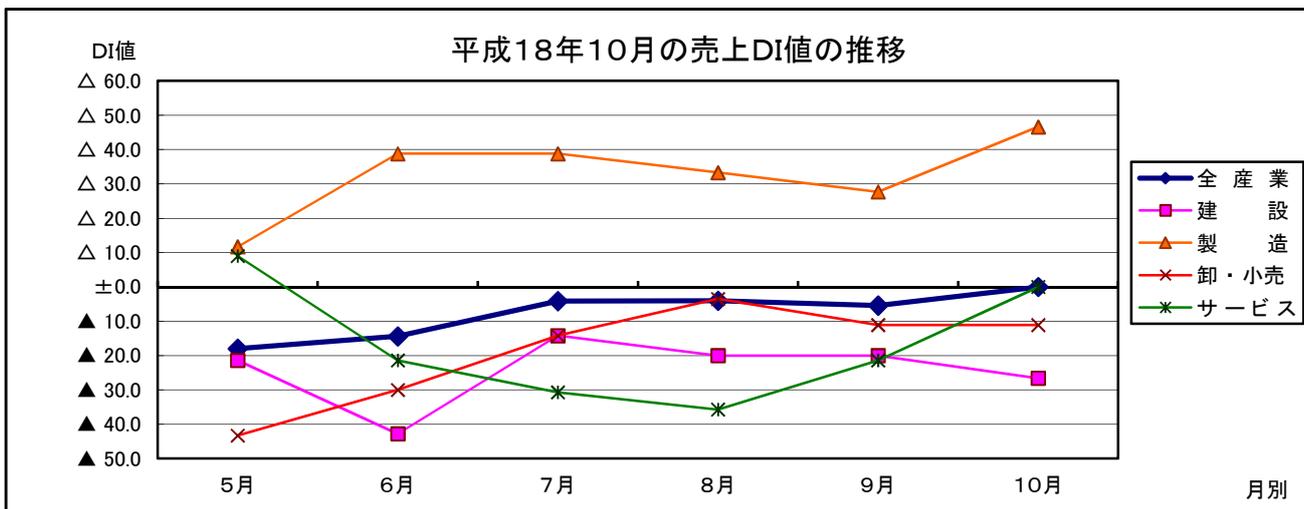
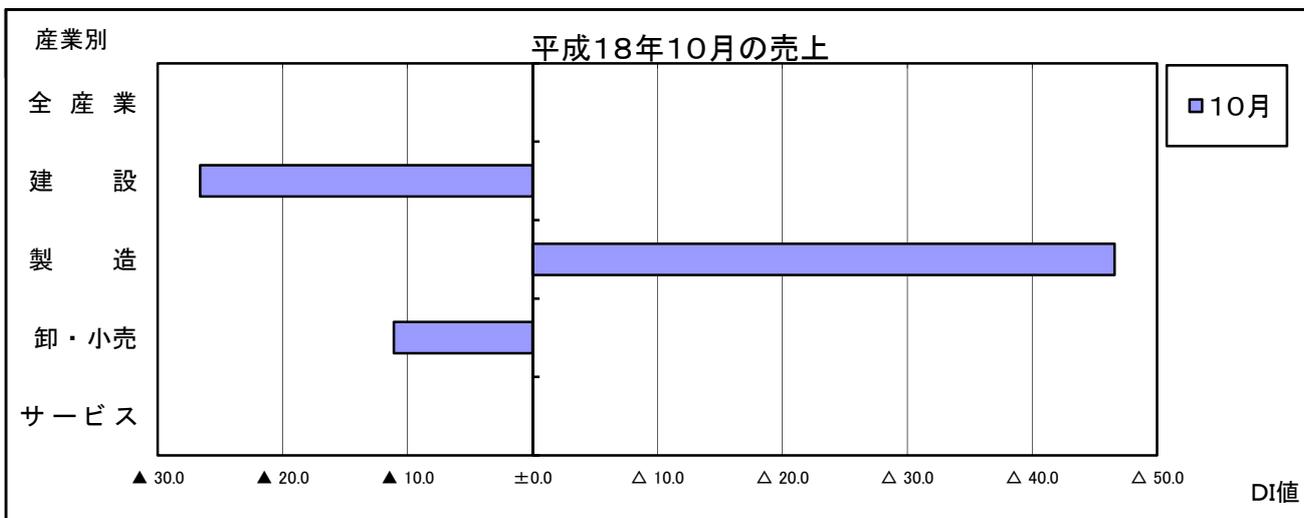
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△46.6(同△27.7)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲21.4)であり、△21.4ポイントと大幅に改善した。変らない業種は、卸小売業▲11.1(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲26.6(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△8.5(前月水準▲8.0)となり、マイナス幅が、△16.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△20.0(同△22.2)である。マイナスからプラスに転じる業種は、幅の大きい順に、建設業△6.6(同▲33.3)、サービス業△7.6(同▲21.4)、卸小売業△3.7(同▲7.1)である。特に、建設業は△39.9ポイント、サービス業は△29.0ポイントと大幅に改善する見通しである。

平成18年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲18.0	▲14.4	▲4.1	▲4.0	▲5.4	±0.0	△8.5(▲8.0)
建設	▲21.4	▲42.8	▲14.2	▲20.0	▲20.0	▲26.6	△6.6(▲33.3)
製造	△11.7	△38.8	△38.8	△33.3	△27.7	△46.6	△20.0(△22.2)
卸・小売	▲43.3	▲30.0	▲14.2	▲3.5	▲11.1	▲11.1	△3.7(▲7.1)
サービス	△9.0	▲21.4	▲30.7	▲35.7	▲21.4	±0.0	△7.6(▲21.4)



【平成18年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.7(前月水準▲17.5)となり、マイナス幅が、△11.8ポイント縮小した。

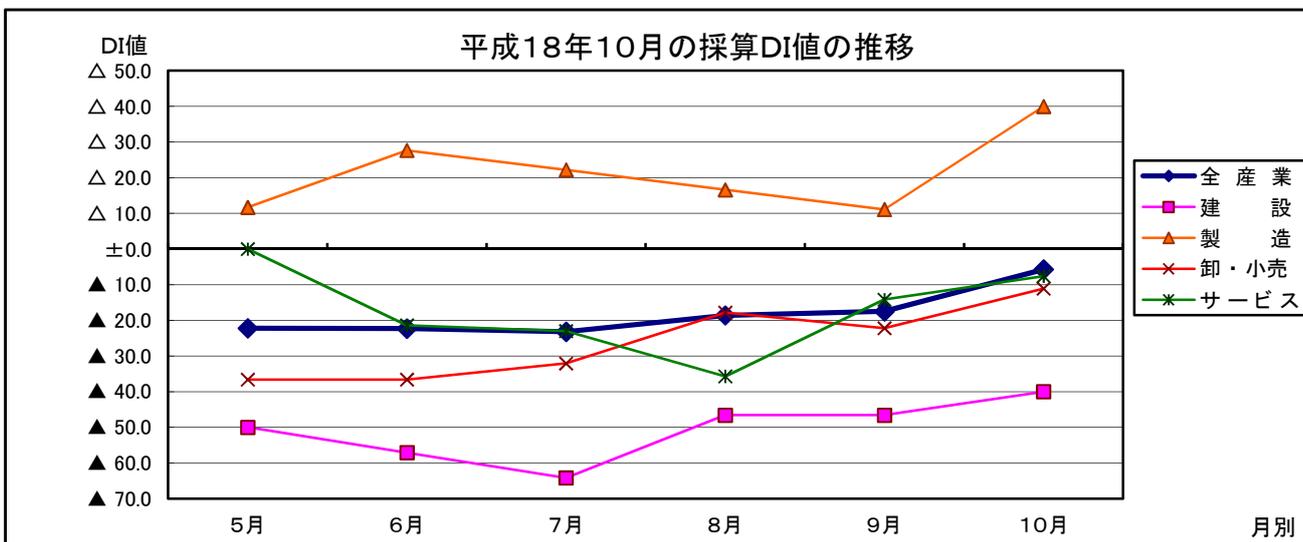
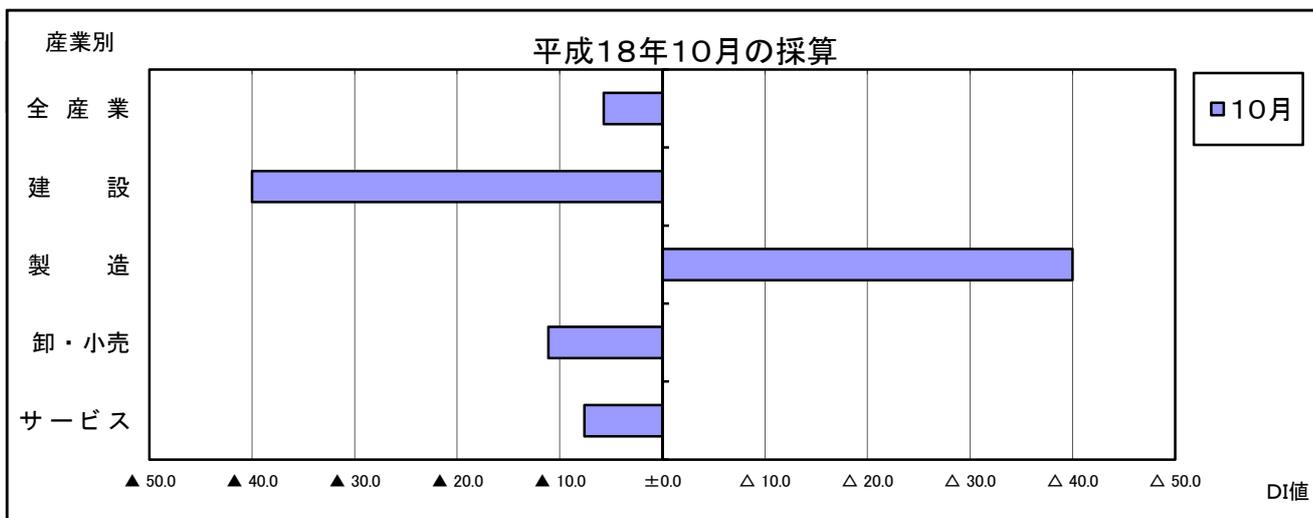
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△40.0(同△11.1)であり、△28.9ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲11.1(同▲22.2)、サービス業▲7.6(同▲14.2)、建設業▲40.0(同▲46.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が△11.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△7.6(同▲14.2)であり、△21.8ポイントと大幅に改善する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△22.2)であり、▲22.2ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.6(同▲60.0)、卸小売業▲3.7(同▲21.4)である。特に、建設業はマイナス幅が△33.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成18年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲22.2	▲22.3	▲23.2	▲18.6	▲17.5	▲5.7	▲5.7(▲17.3)
建設	▲50.0	▲57.1	▲64.2	▲46.6	▲46.6	▲40.0	▲26.6(▲60.0)
製造	△11.7	△27.7	△22.2	△16.6	△11.1	△40.0	±0.0(△22.2)
卸・小売	▲36.6	▲36.6	▲32.1	▲17.8	▲22.2	▲11.1	▲3.7(▲21.4)
サービス	±0.0	▲21.4	▲23.0	▲35.7	▲14.2	▲7.6	△7.6(▲14.2)



【平成18年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.0(前月水準▲39.1)となり、マイナス幅が▲0.9ポイント拡大した。

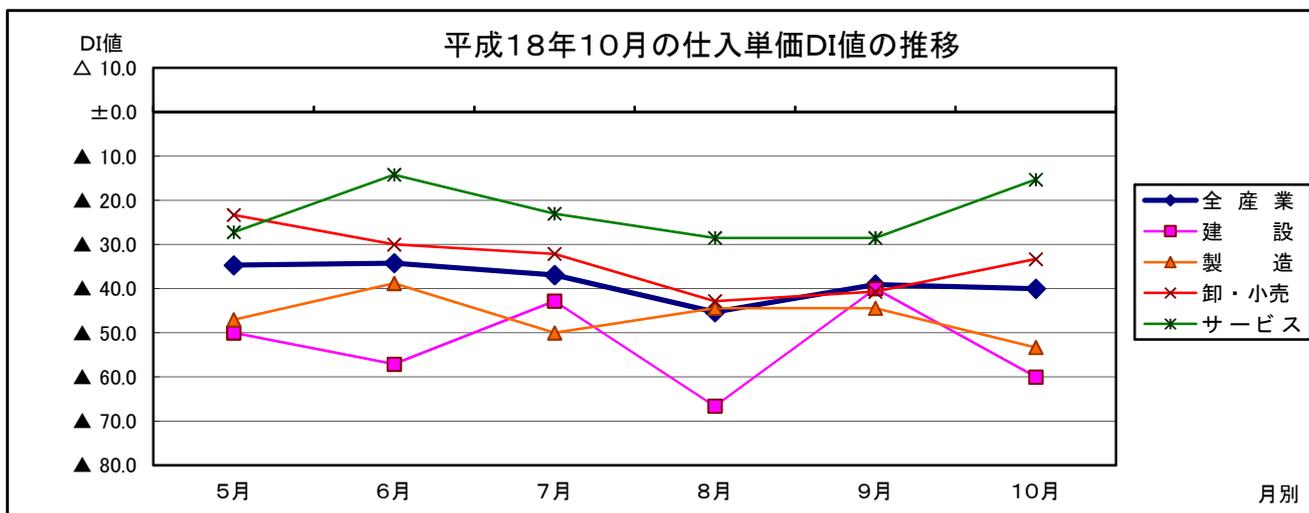
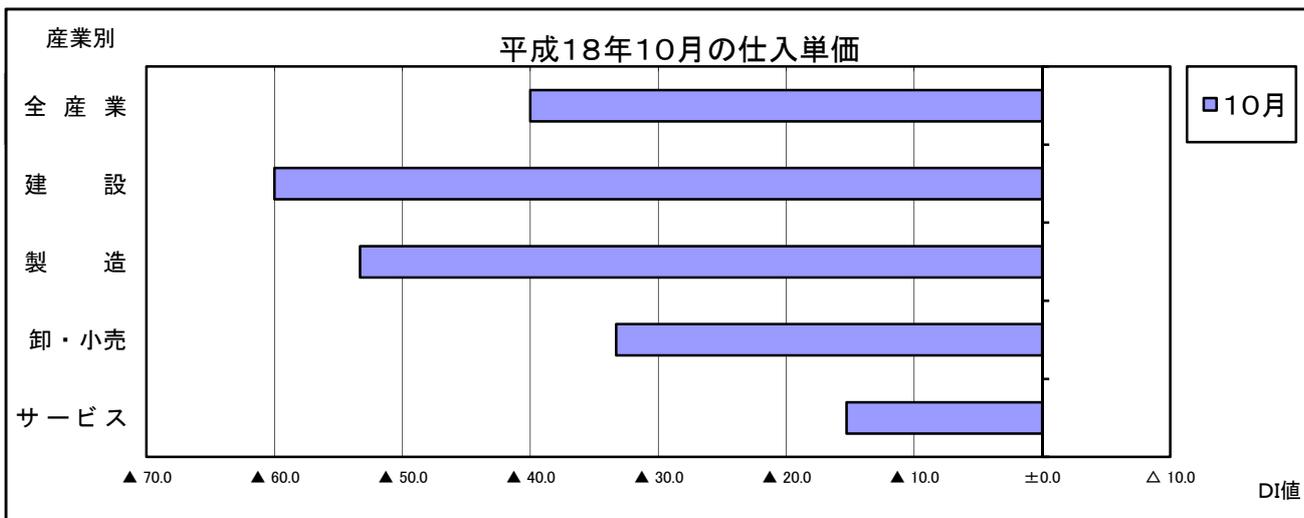
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲28.5)、卸小売業▲33.3(同▲40.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲40.0)、製造業▲53.3(同▲44.4)である。特に、建設業はマイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.7(前月水準▲34.6)となり、マイナス幅が△8.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲14.8(同▲39.2)、サービス業▲15.3(同▲28.5)、建設業▲40.0(同▲46.6)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲24.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲40.0(同▲22.2)である。

平成18年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲34.7	▲34.2	▲36.9	▲45.3	▲39.1	▲40.0	▲25.7(▲34.6)
建設	▲50.0	▲57.1	▲42.8	▲66.6	▲40.0	▲60.0	▲40.0(▲46.6)
製造	▲47.0	▲38.8	▲50.0	▲44.4	▲44.4	▲53.3	▲40.0(▲22.2)
卸・小売	▲23.3	▲30.0	▲32.1	▲42.8	▲40.7	▲33.3	▲14.8(▲39.2)
サービス	▲27.2	▲14.2	▲23.0	▲28.5	▲28.5	▲15.3	▲15.3(▲28.5)



【平成18年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△14.2(前月水準△13.5)となり、プラス幅が△0.7ポイント拡大した。

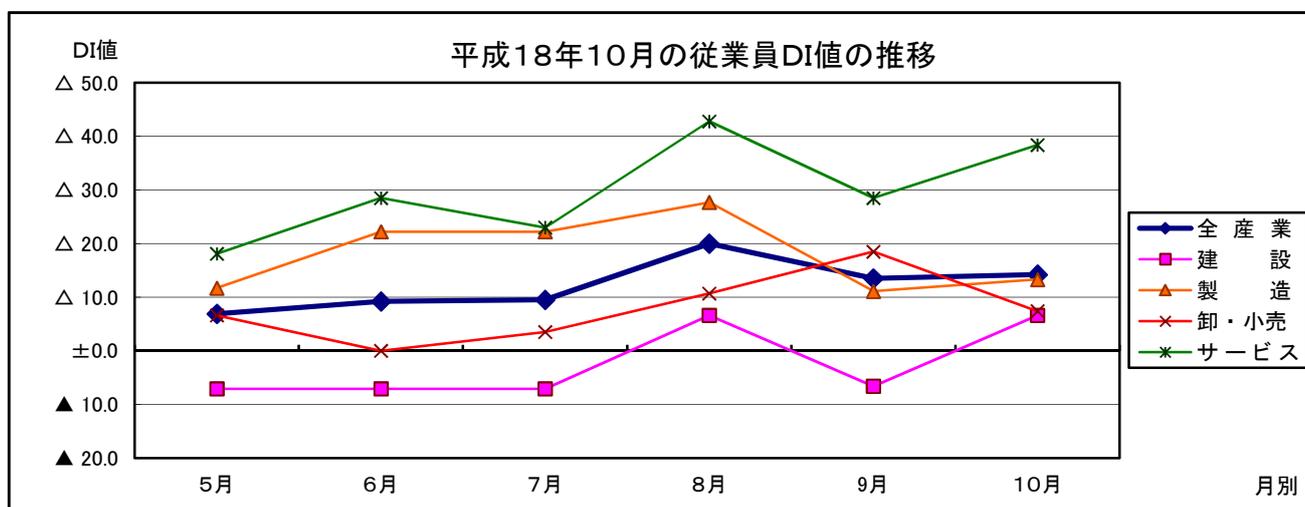
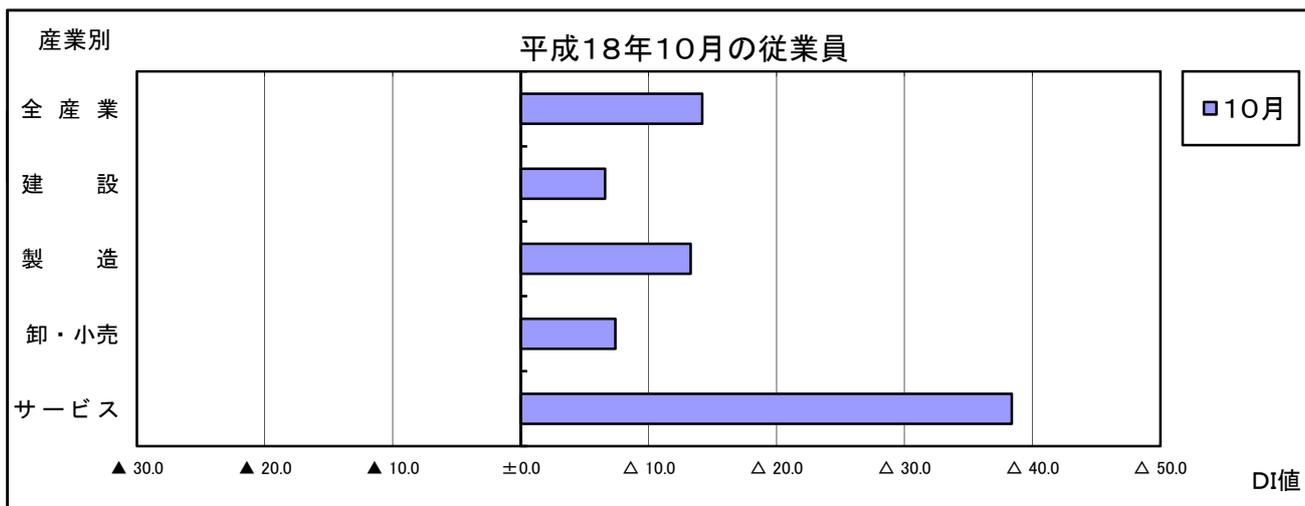
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△38.4(同△28.5)、製造業△13.3(同△11.1)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業△7.4(同△18.5)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△6.6(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.5(前月水準△17.3)となり、プラス幅が△1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、幅の大きい順に、製造業△26.6(同△11.1)、サービス業△46.1(同△42.8)である。変らない見通しの業種は、建設業△6.6(同△6.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△7.4(同△14.2)である。

平成18年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	△6.9	△9.2	△9.5	△20.0	△13.5	△14.2	△18.5(△17.3)
建設	▲7.1	▲7.1	▲7.1	△6.6	▲6.6	△6.6	△6.6(△6.6)
製造	△11.7	△22.2	△22.2	△27.7	△11.1	△13.3	△26.6(△11.1)
卸・小売	△6.6	±0.0	△3.5	△10.7	△18.5	△7.4	△7.4(△14.2)
サービス	△18.1	△28.5	△23.0	△42.8	△28.5	△38.4	△46.1(△42.8)



【平成18年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.4(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が△9.4ポイント縮小した。

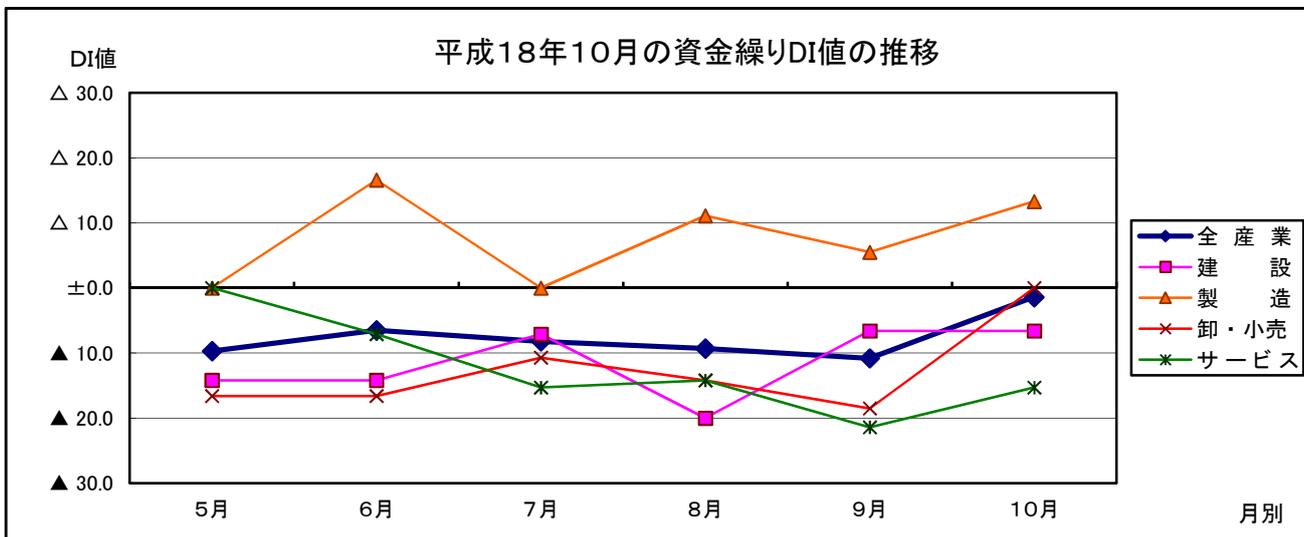
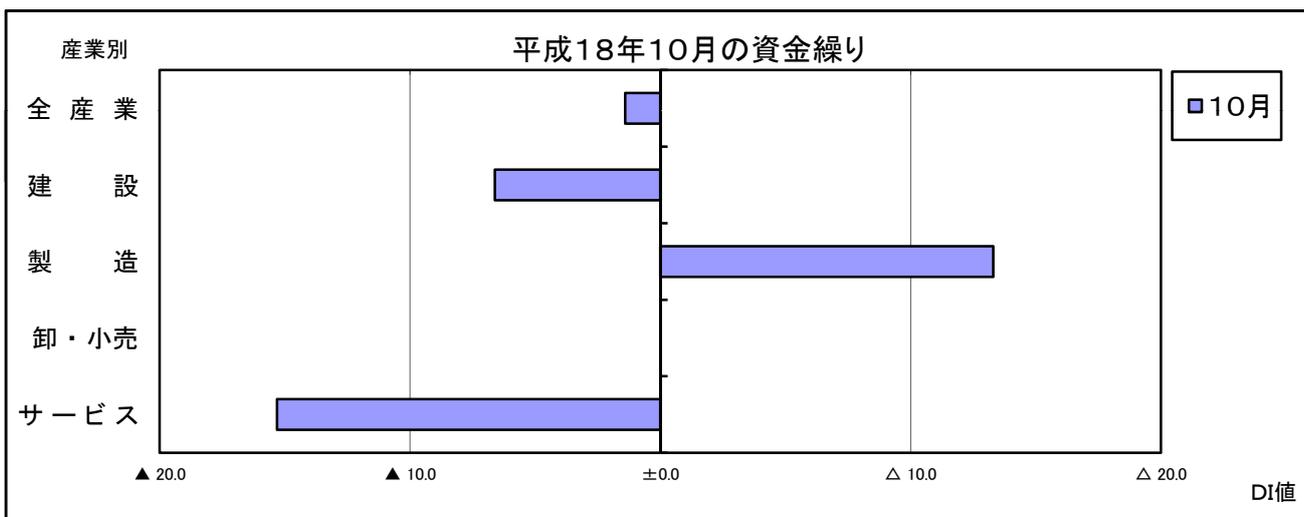
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△13.3(同△5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業±0.0(同▲18.5)、サービス業▲15.3(同▲21.4)である。変わらない業種は、建設業▲6.6(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が△6.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△11.1(同▲17.8)、建設業±0.0(同▲6.6)であり、卸小売業は△28.9ポイントと大幅に改善する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲6.6(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲15.3(同±0.0)、である。

平成18年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成18年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲9.7	▲6.5	▲8.2	▲9.3	▲10.8	▲1.4	±0.0(▲6.6)
建設	▲14.2	▲14.2	▲7.1	▲20.0	▲6.6	▲6.6	±0.0(▲6.6)
製造	±0.0	△16.6	±0.0	△11.1	△5.5	△13.3	▲6.6(△5.5)
卸・小売	▲16.6	▲16.6	▲10.7	▲14.2	▲18.5	±0.0	△11.1(▲17.8)
サービス	±0.0	▲7.1	▲15.3	▲14.2	▲21.4	▲15.3	▲15.3(±0.0)



【平成18年10月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード
建設	世の中全体が活発化されてきた、柏にも出てきているのではないかと、正に、価格競争は厳しい。しかし健康に良いもの、使い安いもの、人生においての幸福度を考えられる努力をしなければいけない。	・明るい兆し ・価格競争
	市場は動いてきたが価格競争の結果が市場の単価に響いている状態が続き逆に厳しい。	・価格競争 ・厳しい業況
	厳しい状況は変わっていません。	・厳しい業況
	前月に続き先行き不透明という感じはいなめない、好転材料は特に見当たらない、よって先行きの不安が残る。	・先行き不透明
	相変わらず。	・変化なし
	工期が集中してしまい、調整が厳しい状況です。機械を稼動するのではなく「人間の手」ですることなのでなかなか難しい現実です。適度に分散できればありがたいのですが…。	・工期集中
	少し明るさが見えてきたような気が致します。	・明るい兆し
依然としても厳しい状況で変りはないが、大手建設業関係が良い方向に改善されて来ているので、多少なりとも我々サイドも良い方向に成り、希望の持てる時代が近い内に到来すると思う。今が頑張り時と確信している。	・厳しい業況 ・明るい兆し	
製造	秋雨の影響により9月の平均気温が平年・前年ともに大きく下回った。その影響で業界全体の出荷量も前年を下回った。	・天候の影響 ・出荷減少
	原油価格は落ち着いてきたが原材料の価格下落までには至っていない。	・原油価格
	複写機業界は、良い方向へ向かっており、売上げ自体の伸びは若干でも上向きに来ている。	・複写機業界好転 ・売上増加
	半導体設備が非常に良い	・設備投資
卸・小売	気候も安定して良くなると思われたのですが、量販店、専門店、そして飲食店とそれぞれ今一步という感じです。特に飲食店は酒気帯び運転が騒がれるなか苦戦を強いられています。	・天候の影響 ・飲酒運転取締
	○売上は前年と同水準を維持している。○お歳暮の早期受注を10月8日(火)よりスタートさせた。	・売上横ばい ・年末商戦
	○セール強化(創業祭、セ・リーグ、パ・リーグ優勝セールetc)により、昨年比を維持しているが荒利がとれていない。○セール効果は住関連、食品で出ており荒利の高い衣料が今一步不振の状況。	・セール ・住関連好調 ・食品好調 ・衣料品低調

【平成18年10月の業種別業界内トピックス】

	<p>今年、台風被害少ないものの猛暑のあと、一時大雨による被害影響がありました。この中、野菜部門では、昨今、前年を上回る入荷状況で増加傾向、単価高もおさまり安値の動きをしています。また、果実部門は、入荷減の単価高の状況、特に、みかんが約15%の減少予想です。青果物卸として、消費者へのニーズに応えるためにも、集荷は、万全を期して対応していきます。また、11月ららぽーと柏の葉オープンにも期待しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・野菜入荷増の単価安 ・果実入荷減の単価高 ・大型店開店
	<p>厳しい業況に変わりはないが、今月は好天が続き、気温も高めであったため、売上げは前年並みに推移している。これから年末に向け、ギフトやクリスマスなどの予約商品に取り組み、売上げを作っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい業況 ・天候の影響 ・売上横ばい ・冬物商品
	<p>好天が続き比較的好調。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響
	<p>学生衣料 10月初旬の朝夕の冷え込みでセーター類が少し動いたが連日の温かさでストップ、衣替えもさえない、冬物のコート類に期待。事務文具 文化祭、体育祭関係も予算の縮小のためか例年に比べてさえない。募集 ららぽーとの本格的募集や、ジャスコの募集の影響か人材が集まらない、特に柏市内では集まりにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・冬物商品 ・学校行事 ・大型店開店 ・求人難
	<p>原油価格の値下げ傾向にあり。市況価格もそれ以上に下がり気味です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原油価格
	<p>吉報!!! 原油・高騰が一般、10円価格少々下落、長い経験から糠喜びかも知れないが、一時でも息がつく。経済産業省で安定供給重要性のため、LPガス備蓄制度の検討を望む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原油価格 ・LPガス
	<p>前年比売上減少止まらず、11月のららぽーと柏の開店状況が気になります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・売上減少 ・大型店開店
	<p>ギフト向けの商品に関しては専門店としてまだまだ開拓の余地があると思われませんが、一般小売(本来の花屋が扱っていた仏花、家庭用花瓶花、ガーデン用鉢物、花鉢etc...)の商品は大型店(ホームセンター、スーパー、コンビニ等)に支配されつつあり厳しい状況です。大型店乱立の中今後の方向付に苦心している状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい業況 ・大型店開店
	<p>年々販売期間が短くなる秋物商品に変わり、冬物商品が並びはじめた。気温も順調に低下しており、年末に向け大いに期待をしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋物商品 ・冬物商品 ・天候の影響
	<p>10月度は昨年8月につくばエクスプレスが開業し、6ヶ月定期書き換えが10月からだったことから、昨年は入店客数が大きく落ち込んだ。その反動や、bayfmの「10th Anniversary」のイベントが奏功したことから、今年度は月初より入店客数・売上共に前年を上回る推移となった。5日には台風の影響、6日は低気圧の影響により、悪天候だったことから、売上高は若干落ち込みをみせた。以降、前年並みの推移となっている。後半にかけては、大きなイベントはないものの、接客を強化し前年確保していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入店客数増加 ・天候の影響
サービス	<p>先月17日千葉県理容フェスティバルで(浦安開催)柏支部所女性部の民舞で審査委員特別賞をいただきました。組合が元気な事のアピール?</p>	
	<p>平日のランチタイムは忙しいのですが、ディナータイムの客足が減った気がします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ好調 ・ディナー不調
	<p>10月に入り、お客様の利用が増えた。秋の味覚フェアが、利用客増につながったようだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・客数増加 ・秋物商戦
	<p>年末商戦のイベントを計画中である。地域ぐるみでできないか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年末商戦
	<p>展示会は好調、宿泊は長期滞在者多し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会好調 ・宿泊好調

【平成18年10月の多い景気キーワード】

◎天候の影響

- ・ 秋雨の影響により9月の平均気温が平年・前年ともに大きく下回った。その影響で業界全体の出荷量も下回った。 (製造業)
- ・ 気候も安定して良くなると思われたのですが、量販店、専門店、そして飲食店とそれぞれ今一歩という感じです。 (卸小売業)
- ・ 台風被害少ないものの猛暑のあと、一時大雨による被害影響がありました。 (卸小売業)
- ・ 今月は好天が続き、気温も高めであったため、売上げは前年並みに推移している。 (卸小売業)
- ・ 好天が続き比較的好調。 (卸小売業)
- ・ 10月初旬の朝夕の冷え込みでセーター類が少し動いたが連日の温かさでストップ、衣換えもさえない (卸小売業)
- ・ 気温も順調に低下しており、年末に向け大いに期待をしたい。 (卸小売業)

- ・ 5日には台風の影響、6日は低気圧の影響により、悪天候だったことから、売上高は若干落ち込みをみせた。 (卸小売業)

◎厳しい業況

- ・ 市場は動いてきたが価格競争の結果が市場の単価に響いている状態が続き逆に厳しい。 (建設業)
- ・ 厳しい状況は変わっていません。 (建設業)
- ・ 依然としても厳しい状況で変わりはない (建設業)
- ・ 厳しい業況に変わりはない (卸小売業)
- ・ 一般小売(本来の花屋が扱っていた仏花、家庭用花瓶花、ガーデン用鉢物、花鉢etc…)の商品は大型店(ホームセンター、スーパー、コンビニ等)に支配されつつあり厳しい状況です。 (卸小売業)

平成18年10月のCCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.1に対し、「CCI-LOBO」が▲25.2で、マイナス幅が18.1ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で10ポイント以上良くなっている。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が±0.0に対し、「CCI-LOBO」が▲16.6で、マイナス幅が16.6ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲26.1で、マイナス幅が20.4ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業である。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.0に対し、「CCI-LOBO」が▲27.1で、マイナス幅が12.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業。10ポイント以上悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△14.2に対し、「CCI-LOBO」が▲0.2で、プラス幅が14.4ポイント大きい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.4に対し、「CCI-LOBO」が▲19.2で、マイナス幅が17.8ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。

平成18年10月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 7.1	 20.0	 13.3	 7.4	 15.3
CCI LOBO	 25.2	 38.1	 13.4	 23.1	 28.1

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ±0.0	 26.6	 46.6	 11.1	 ±0.0
CCI LOBO	 16.6	 29.6	 1.2	 17.0	 23.8

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.7	 40.0	 40.0	 11.1	 7.6
CCI LOBO	 26.1	 42.0	 21.7	 18.7	 27.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.0	 60.0	 53.3	 33.3	 15.3
CCI LOBO	 27.1	 34.2	 40.7	 12.7	 23.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 14.2	 6.6	 13.3	 7.4	 38.4
CCI LOBO	 0.2	 14.7	 1.9	 5.9	 1.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.4	 6.6	 13.3	 ±0.0	 15.3
CCI LOBO	 19.2	 30.8	 15.2	 16.2	 18.7

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成18年10月19日～25日

調査対象：全国の407商工会議所が2589業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況D Iのマイナス幅は二カ月ぶりに縮小

十月の業況をみると、全産業合計の業況D I(前年同月比ベース以下同し)は、前月水準(一七・〇)よりマイナス幅が一・八ポイント縮小して二五・二となり、二カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

【建設業】では、「引き続き増改築工事の件数が増加している」(建築工事)との声がある一方、「銅など資材の仕入コストが昨年と比較して二倍以上も上昇している」(電気工事)、「公共事業、民間工事ともに増加傾向にあるが依然として受注額は低下傾向にあり、合理化で利益を出そうにも限界が見えてきた」(管工事)との声も寄せられている。

【製造業】では、「業況好調により各企業とも積極的な設備投資を行っており、いざなぎ景気以来の好景気にあることを肌で感じている」(通信機械器具製造)との声がある一方、「売上は前年同月比で増加したが、業況、採算ともに好転したとは言えず、仕入コストも上昇傾向にあるため、先行き不透明感強い」(他の輸送用機器製造)、「業況は総じて順調に推移しているものの、借入金金利上昇への動きが見られるなど、先行き不透明感がぬぐえない」(一般産業用機械製造)と、仕

入コストや借入金金利の上昇による先行き不透明感を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「先行きに多少の不安はあるものの足元の業況は好調で、売上、採算ともに改善している」(鉱物金属材料卸売)との声がある一方、「昨年同月比で大きな変動はないものの、量販店との競争激化で厳しい状況が続いている」(衣服・日用品卸売)とのコメントのほか、「冬が近づき鍋料理の季節が近づいているが、主力商品である土鍋の売上がまだ盛り上がりがない」(他の卸売)と、消費低迷を訴える声も寄せられている。

【小売業】では、「来店者数の増加に伴い売上高も好調を維持しており、個人消費の回復に手こたえを感じている」(百貨店)との声がある一方、「地域経済全体が停滞しており、消費者の購買意欲は一向に高まらない」(商店街)とのコメントも寄せられている。また、

「競争激化、原油高、金利高、人件費の上昇などの要因が重なり、依然として採算が取れない状況が続いている」(百貨店)と、各種コストの上昇等による影響を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「軽油価格の上昇がようやく峠を越えようとしている」(運送業)との声がある一方で、「輸送量は増加しているものの、軽油の仕入価格が高水準にあるため、採

算が好転しない」(その他サービス)とのコメントも寄せられている。また、「売上は横ばいであるが、同業他社との競争でコストアップ分の価格転嫁ができず、厳しい状況に追い込まれている」(旅館)と、「コスト上昇分の価格転嫁に悩む声も寄せられている」。

十月のキーワード

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声も寄せられている。「建売住宅関連の工事が多く非常に忙しい」(伊丹・一般工事)、「採算の大きな好転は望めないものの年末に向けて受注額が増加する見通しであり、原油価格の落ち着きで仕入コストも止まるのではない」(延岡・建設建築用金属製造)とのコメントが寄せられている。また、「これから秋の観光シーズンが本格化するため、業況回復が実現するよう期待している」(島田・農畜産水産物卸売)、「冬物商品が売れ始めたため、売上高はわずかではあるが増加傾向にある」(武蔵野・商店街)との声のほか、「秋の観光シーズンを迎え、十五人程のグループでの宿泊が増加している」(赤穂・旅館)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念
一方で、各業種から、引き続き公共工事の減少など業況低迷や先行き不透明感、仕入コストの上昇による採算悪化、借入金金利の上昇、来店者数低迷を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「公共工事の減少が続く中、事業者は業況改善を目指して必死に努力しているが、一向に改善する気配が見えない」(玉名・一般工事)、「原油や各種資材コストは依然として高水準にあり、製品価格に転嫁できず厳しい状況が続いている」(大阪・繊維機械製造)との声も寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「輸人物との競争に負けるケースが増え、借入金金利の上昇で採算の悪化が懸念される」(福島・農畜産水産物卸売)、「休日の来店者数が非常に少なく、業況は非常に厳しい」(福山・商店街)、「観光ビジネスともに宿泊者数が少なく、原油価格高騰の影響も深刻化している」(長野・旅館)とのコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇
また、引き続き、高い水準にある原油、素材価格の影響による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「依然として原油高の影響を受けており、重機や車輻にかかる経費は上昇を続けている」(土佐清水・土木工事)、「資材の仕入コスト上昇が続く、コスト上昇分を吸収しようにも自助努力は限界を超えている」(神戸・ゴムプラスチック履物製造)と、

「紙やインクなどの仕入コストが高騰しており、売上と比べてコストがかかりすぎている」(長野印刷)との声も寄せられている。また、小売、サービスからも「原油高の影響で関連製品の仕入単価が上昇している」(小牧・その他小売)、「燃料価格の上昇分を運賃に転嫁するため、荷主と交渉を行っているが、苦戦を強いられている」(石岡・その他サービス)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況D Iの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	23.6	40.0	10.5	32.3	22.4	24.6
6月	27.5	44.1	16.1	31.5	23.4	32.5
7月	24.0	36.5	8.3	31.8	22.4	31.4
8月	22.9	34.8	12.8	30.5	19.7	26.7
9月	27.0	43.1	14.3	32.9	22.0	33.3
10月	25.2	38.1	13.4	34.4	23.1	28.1
見通し	20.7	36.2	14.8	20.5	17.7	20.3

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I